

# 新時代



2019年10月発行 通巻452号  
〈題字〉 薬師寺 高田好胤師

対談

「現世うっしょに生きるとは？」



OTHER CONTENTS

- ・ 2019年事業紹介
- ・ 2019年度新入会員紹介



## Special talk

俳優・ファッションモデル・デザイナー

一般社団法人奈良青年会議所第60代理事長

# 井浦新 × 坂田智哉



### 坂田 智哉 (さかた ともや)

1981年生まれ。奈良市出身。一般社団法人JOC奈良青年会議所第60代理事長。2010年度入会、2016年度奈良ブロック協議会事務局長兼総務委員長、2018年度奈良JOC副理事長を経て現在に至る。奈良市内の株式会社博善社にて葬祭業を営む。「暮らしの新たな価値の創造と社会に貢献できる企業を目指す」と企業の理念に掲げる。趣味は寺社散策や美術館めぐり。



**坂田** まず自己紹介から始めさせていただきます。私、一般社団法人奈良青年会議所第60代理事長を仰せつかっております坂田智哉と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。色々やっています。(笑)こちらこそどうぞ宜しくお願いいたします。第60代理事長ですが、すごい歴史ですね。60代ってどのようにならぬか、という感じがするんですよ。

**坂田** そうなんです。そして奈良県の中には9つの青年会議所がありまして、地域分担で日々いろんな活動を行っております。また、私たちは本年創立60周年ということ、非常に力を入れてこの事業がございまして8月24日に東京の地で奈良の魅力を発信するという事業を青山で行います。奈良の物産であったり、奈良の清酒発祥の地ということもありまして日本酒のPRや奈良の伝統的な体験やブース、奈良の早朝や深夜の写真を展示したり、奈良のこの時間帯がオススメなど、地域の課題解決のために奈良へ観光で来ていただきたいと日々努力しているところでもあります。

**井浦** 若手経済人の皆さんが集まって日々まわりのために活動されているんですね。

**坂田** はい。続いて奈良のまちについてですが、私は生まれも育ちも今も奈良に住んでいるのですが、普段の日常生活の中で色々な歴史・文化に触れながら育ってきました。井浦さんの目に映る奈良のまちについてお聞きしたいのですが、奈良にも何度か訪れておられるという事で、奈良のまちの印象はどのように感じてもらえますか？

**井浦** そうですね、私にとっての奈良の印象は、高台から望んだ街並みを眺めていると、今でこそ建物や山々、田畑が混在し、そして決して大きくはないけど小さくもない奈良盆地を眺めていると、何千年も前にこの地に一大国家があったんだなと、関東には平野があるんですけど、これも奈良盆地のサイズ感が色濃く文化を醸成させる要因だったのかなと感じます。

**坂田** 井浦さんから奈良の印象に関してそのような視点で奈良を感じていただいていることに、奈良に住む私たちにとって、ありがたい感覚であり、とても新鮮に感じますね。

**井浦** 奈良のまちは緩やかな傾斜が多いですよ。例えば春日大社からのゆるやかな傾斜であるとか、そのゆるやかな傾斜を歩むことで、当時から続く神域の力を感ぜたりだとか、今でこそ境内の中に入れたり宿泊できたりだとか、阿修羅像の興福寺であるとかを考えるとあり得ないことができちゃってすごいなって。

**坂田** 悠久の歴史や文化を肌で感じていただくことができるので歴史好きにはたまらない地域であります。

**井浦** あとは僕は、路地裏が好きで市内の方とかでもなく歩いて、街灯が仄暗くなっていく感じを探してさまようの好きで、特に奈良は今僕が立っているこの場所に日本都の始まりがあったんだなあ、って思わず今のまちからでも感じる事が出来ますし、あとは奈良のまちの夕日でしょうか。なんででしょうね。奈良って夕日が似合うまちで、夕日が似合う場所にまちを造ったのかなって思うくらい。この間も撮影してきました。もちろん早朝も僕のお気に入りですけど。

**坂田** 奈良の夕日は私も大好きです。夕日の表情が毎日違うんです。そんな夕日が古来から奈良を優しく見守ってくれている感じがたまらないです。今回のこの広報誌「まほら」についてなんですが高田後胤先輩に題字を書いていたのを見て、高田後胤先輩に題字を書いたのを見て頂きます。※題字をみて頂くと、感心も感じますし、優しい感じがしますね。

とのことで、不思議なご縁を感じます。奈良青年会議所は20歳から40歳までの青年経済人の集まる団体で、地域のひとつづくり・まちづくりを通して明るい豊かな社会の実現を目指し、日々活動しております。会員の職種は、寺社仏閣の方や弁護士・会計士、建設業、デザイン業など様々な職種の方がおられます。

**井浦** すごく。色々な職業の方が在籍されているんですね。

**井浦** そうですね、私にとっての奈良の印象は、高台から望んだ街並みを眺めていると、今でこそ建物や山々、田畑が混在し、そして決して大きくはないけど小さくもない奈良盆地を眺めていると、何千年も前にこの地に一大国家があったんだなと、関東には平野があるんですけど、これも奈良盆地のサイズ感が色濃く文化を醸成させる要因だったのかなと感じます。



～己の感性と美意識を研ぎ澄ませ、個性を叫ぼう～



## 井浦新 (いうら あらた)

1974年東京都生まれ。98年に映画『ワンダフルライフ』に初主演。以降、映画を中心にドラマ、ナレーションなど幅広く活動。アパレルブランド『ELNESTORE CREATIVE ACTIVITY』のディレクターを務めるなどフィールドは多岐にわたる。第11回TAMA映画賞最優秀男優賞に選ばれるほか、9月27日より公開中の『宮本から君へ』に出演中。10月13日よりNTV『ニッポンノワールー刑事Yの反乱-』に出演



ろばとして奈良が再興するようになると思いが込められています。また「まほろばなひと」という意味もございませぬ。ただ先ほど井浦さんもお話しされていたのですが古き良き奈良の歴史や文化を継承するため、国際文化観光都市として、多くの人に訪れていただき奈良で有意義な時間を過ごしていただくために、国内外の観光客を受け入れる設備も整えていかなくてはなりません。

**井浦** でも確かに奈良に暮らしている人々からすれば魅力を伝える為に交通網を整備というかインフラを整えてほしいとは思っていますよね。  
**坂田** 思っていますね。  
**井浦** ほかの県に負けなように頑張ろうという活動や想いは伝わってきます。ただ、僕たちのような旅人として訪れる者にとっては手付かずのままだから良いという見方もあるんです。確かに様々な遺構や遺物を見やすい環境に整えていた

**坂田** ありがとうございます。何か自分の住み暮らす地域に対して、深くて温もりのある言葉をいただき、とても誇らしいです。その他に、奈良のまちの魅力ってどのようなところがありますでしょうか。  
**井浦** 先ほどもチラッと答えましたけれども僕はやっぱり夕日が、な、奈良の夕日は綺麗なんだらうって。どこでも綺麗な夕日はなかなか見ませんが、この綺麗な夕日を古くから沢山の人が見

続けていると思うと心が震えるんです。誰も見たことがないとか、秘境であるとかじゃなくて、文化が育まれた都で魅了し続けているというところがやっぱりすごいなあって……。  
**坂田** ……。あつとつい聞き入ってしまった(笑)。  
**井浦** 奈良にも沢山の職人さんがおられるじゃないですか。それこそ天平の時代からその技術を現代まで継承し、今も作り続けてらっしゃる職人さんのお話しを伺うだけでも、本当にすごいことだと感じているなと思えます。僕は役者をやっていて十年続けるだけでも大変なこと、それを奈良というのはい体どれだけ続けてきているのかと。

**坂田** そうですね。私も先日漆職人の方から、古来からの技法についてお話を聞いた時、奈良の歴史の重みを再認識しました。  
**井浦** 古代から考えたら日本人の文化はもっと古くから花開いていたと思うんですけど、その古代をちゃんと経てそこを下敷きしながらも奈良からまた新しい文化を作っているって、ある意味奈良は始まりの地でありますから、その時代から考えたら現代まで継続してきた力ってやっぱり何物にも代えられないものだと思えます。続けることがどれだけ大変かというその片鱗を少しでも感じ

ることができたと言ってもまだ数十年とかですけど、大人としては奈良と個人を比べるのはナンセンスですが、それを続けてきている奈良のポテンシャルってやっぱり普通じゃないなと、すごいことだと思えます。  
**坂田** なるほど、ありがとうございます。  
**井浦** 何度も思いますが、神社にしても職人の仕事にしてもそうですし、僕が何度も足を運んでいて、吉野山で山の中を歩いていても、西行と出会ってしまったりするわけです。こんな山の中で突然どんと西行庵がでてきたりすると、やっぱり普通じゃないなと思うんです。そういったものが現代の生活している環境

に密接に隣り合わせに当たり前にあるのが、僕のような歴史大好き人間にはちよつとやっぱり普通じゃない場所なんですよね。僕なんかは写真でしか見たことのないようなものが隣にあるのが、子どもの頃当たり前のよう



に遊んでいた環境の中にそれがあってすごいなと本当に思います。  
**坂田** 奈良のまちの魅力、文化についてお話しいただきました。奈良に住んでいる人間の側に立っていると、当たり前すぎて見えていない「奈良」がたくさんあります。  
**井浦** とても贅沢だと思います(笑)。  
**坂田** そうですよ。私も猿沢池という場所に住ん

で、密接に隣り合わせに当たり前にあるのが、僕のような歴史大好き人間にはちよつとやっぱり普通じゃない場所なんですよね。僕なんかは写真でしか見たことのないようなものが隣にあるのが、子どもの頃当たり前のよう





でおりまして、興福寺の五十二段、五重塔のあたりで小学生は遊ぶんです。たまに、春日大社・東大寺あたりまで繰り出すことも、各所寺社の中で遊び、夕方になると家に帰るという生活でした。奈良のまちをよくしたいという思いを持ちながら自分の中で当たり前すぎて見えていない部分が見えてきました。

**井浦** そうなんです。ね。

**坂田** 本来奈良の良さをもっと追求し、発信していく団体であるのに、時として近すぎて見えなくなってしまうことがあります。改めて奈良の良さを語っていただいて私ももっと近くにあるものを大切にしていきたいながら奈良の魅力の発信に努めていきたいと思えました。

**井浦** 頑張ってください。応援しています！

**坂田** 続きまして、私は今年のスローガンに「己の感性と美意識を研ぎ澄ませ、個性を叫ぼう」というフレーズを掲げました。60名の会員が自分の感性と美意識を大切に、個性を活かしながら組織というものをより強く固いながら活動していきたいのですが、組織と個性という部分で相反するところ、個性が叫びにくい部分もあります。

**井浦** なるほど。

**坂田** 私たち自身が育ってきた環境によって身についた感性や研ぎ澄ませられた美意識が、今後テクノロジーの発達によってAIと共存していく社会が生まれてくる中、私たちが感性や美意識を大切にしなければ人間としての存在感が薄れ、AIなどに変わってしまうのではと感じます。井浦様も

様々な環境の中でお仕事をしていて、感性や美意識を「自身の中でどのように捉えられて、大切にされているのか」ということを少しお聞きしたいと思います。

**井浦** 感性と美意識というのは、僕は逆に磨けるものではなくて後から勝手に身につくものでも、もちろんそういってもものを磨練するため、豊かにするために、学ぶことは絶対にやるべきだと思います。知って経験して自分の知育にしていこうとすることをしなければきつとスタートラインにも立ってない。

**坂田** 意識しないとダメですね。

**井浦** そう。それを踏まえたうえで、磨くためにやるのではなく、美意識や感性というものは、自分の好きなことをとことんやるのが、そこに繋がっていくのではないかと感じます。自分ならどのやり方とか、仕事の考え方や行動であったりが美意識でもあると思うので、美しいものだけを見る力ではないと僕は思っています。たとえどれだけ汗だくになって汚い服を着て仕事をしても、その人の心が美しい訳であり、それは自分のやっていることに対して愛を持って続けられているかが、感性や美意識を豊かにするのではないかと感じています。

**坂田** なるほど。

**井浦** 特に感性は、学べ

ば学ぶほど磨かれる訳ではなくて、きっとその人にある程度備わっているもので、それを学ぶことによって磨きをかけていくと思います。自分の中に眠っている感性は無制限でゼロから生まれるものではないんですよね。それを、自分で自分が知ることによって、もしくは経験することによって、もともと持っている感性の磨きをかけていくということなのではないかと思うんです。だから自分が好きだとか興味があるという、心が動く事、動かす事を続けていくと感性って開かれていくんじゃないかと。

**坂田** ありがとうございます。自分らしく生きる、個性を叫ぼうというところなんです。やはり組織という縛りの中で個性が薄れる時があります。奈良のまちづくりや人づくりに、特に人づくりに個性豊かなメンバーや未来の人材を育てていきたいと思っています。その個性を活かして自分らしく生きるには、という最後のお題です。

**井浦** 個性を叫ぼう、いいですね。はい、なんでもお答えします。

**坂田** 私自身、葬儀社を営んでおりまして、奈良のまちを良くしよう、未来の人材を育てよう、と青年会議所運動も行っております。メンバーも自分たちの仕事を終えてから集まって、深夜まで地域の未来について語る



時も多々あります。メンバーの中には、会社や組織の縛りに縛られたり、自分らしく好きなことをしながら生きていくことが難しいという方もいます。そんなメンバーに向けて、個性を活かし自分らしく生きていくにはどうしていけばよいと、お考えでしょうか？

**井浦** どんな仕事でも絶対に面白さとかやりがいとかって見つけられるはずなんです。仕事がつまらないとかやりがいがないって事ではなくて、自分がちゃんとそこを見えていないだけなのかなとも思うんです。与えられた環境すぎて見えていないとか。あなたは全部を見ようとか自分から動いてみるんですか？と問いかけてみたくあります。

**坂田** はい、そうですね

**井浦** 一つの仕事ってそんな生半可なものではなくて、どんなものでも簡単な仕事なんてないし、どんな仕事でも絶対に誰かの為になりますし、それこそ絶対に自分の為になりますから。ちゃんと向き合っていれば、自分がやりたいと思った仕事ではなくても、その中にある面白さとかを自分から見つけていく方が、後から好きになった反動です。自分は役者をやっていますが、本当はどちらかというとものづくりをやりたかったんですけど、ありがたいことにご縁をいただいている映画監督が、やってみたいかと声を掛けてくださって、本当に記念だなあくらい気持ちで、映画を見ることは好きだけど作



# Arata Iura × Tomoya Sakata



とこういうような概念が僕の中には無かったので、突然にポーンと中に放り込まれて映画作りを一回やって、芝居をすること、面白いかはまだ感じられてなかったけど、映画作りの現場がすごい素敵だなというのを感じる。それができて、沢山の人が関わりあってそこには上手い下手とか素人ペテランとかいってはい混じって、でもみんな一つに向かって切磋琢磨しているこの撮影現場が、なんて素敵な現場なんだろう。仕事なんだから続けてみようって、うと思えて、芝居が辛しいかかったんは十年くらいかかったんです。

**坂田** そうなんです。映画作りのあの現場でも少し何かを確かめてみたい、でも楽しさとかまだわからない、続けてきて正直苦しいことしかないんですけど、苦しい、その先に何かがあるんだろうって、あるんだったらいいなって、見たくていままで続けてきたと思うんです。あとはわからないからやってみる。苦しいけどその苦しみの先に、もしかしたら何か光が見えるのかなって。例えば修行をするように、修行の先に何か開けるものがあるんじゃないかという感覚とみよう、よくわからないでも答えなんかはやっぱり出なくて、それでも答えていこうから、続けていって、でも辛いように、言葉にもできるようなって、でも辛いように、いつの間にかデビューの時より少し、視野が広がってきて、現場の中で見る場所がいつの間にか広がって、キャッチもできるようなって、

**坂田** 辛くても、苦しくても続ける事で何か光が見えたり、掴めるものもあると。  
**井浦** そう。そうだった時にこれは、今まで自分は受け身だったんだなって、失敗しながら怒られても自分から何か取りにいったときに、先ほどの個性を叫ぼうという「叫び」といのは大声を出す叫びではなくて「行動」というふうには僕は感じたりんですけど、僕の場合は「叫ぶ」というのは現場で失敗してもいいから行動を起こしていいこうという感じだったんだらうなとイメージしました。

**坂田** 全て見透かされていくようで、まさにその通りなんです。青年会議所運動で重要なことは、率先して行動することなんです。  
**井浦** 行動を自分からすることによって、時には失敗をしてご迷惑をかけたとかした事も、結果的にそれをやったことが次のエネルギーになって、好奇心も増してきました。想いを持って行動をしてるね、独自のやり方や考えを持ってやっていると見られる、というのが個性を叫ぶって言葉と重なってくるなと思います。自分から行動すること、どんな仕事でも最初から面白い仕事なんてないので、辛いなあとかこの仕事続けていいのかなあこんな仕事続けていいのかなあと思っている人は、そんな人ほど自分の足元をしっかりと見つけることが、その中に絶対何かがあって、見落としているだけじゃないのかなと思います。

**坂田** ありがとうございます。早いものでお時間も来りましたので、最後に今いただきました個性を活かして自分らしく生きるとは、どんな仕事に対しては、どんな仕事に対しては、全力で向かっていきながら、辛いときもその先にあるものを見据えて諦めることも続けること、それが行動につながる、その行動がいろんな人生の糧になっていくのかなと思います。本当に今日はお忙しい中、対談いただきましてありがとうございます。

**井浦** こちらこそ、楽しかったです。どうもありがとうございました。  
**坂田** そして本日はこの薬師寺東京別院での対談のご許可をいただきまして、小林先輩にも心から厚く御礼申し上げます。  
**井浦** ありがとうございます。宗良のお話を聞いていたら、また宗良に行きたくなります。今日も貴重な場所に対談させていたいただいて、宗良の薬師寺さんにも是非お伺いしたいなあ。

**坂田** 是非是非！宗良にお越しくださいませ。お待ちしておりますので。

**坂田** ありがとうございます。早いものでお時間も来りましたので、最後に今いただきました個性を活かして自分らしく生きるとは、どんな仕事に対しては、どんな仕事に対しては、全力で向かっていきながら、辛いときもその先にあるものを見据えて諦めることも続けること、それが行動につながる、その行動がいろんな人生の糧になっていくのかなと思います。本当に今日はお忙しい中、対談いただきましてありがとうございます。

**井浦** こちらこそ、楽しかったです。どうもありがとうございました。  
**坂田** そして本日はこの薬師寺東京別院での対談のご許可をいただきまして、小林先輩にも心から厚く御礼申し上げます。  
**井浦** ありがとうございます。宗良のお話を聞いていたら、また宗良に行きたくなります。今日も貴重な場所に対談させていたいただいて、宗良の薬師寺さんにも是非お伺いしたいなあ。

**坂田** 是非是非！宗良にお越しくださいませ。お待ちしておりますので。



# REPESENT NARA

活動報告

## 4月第一例会

### HELLO NEW ERA ～IN NARA～

4月30日（月）平成最後の日に一般社団法人奈良青年会議所は4月第一例会として企画例会「HELLO NEW ERA ～IN NARA～」と称しまして、奈良のまちを訪れて下さった外国人観光客の方を中心に「奈良の魅力や日本の伝統、奈良発祥文化の発信」を目玉に新しい時代に向けて事業をおこないました。

自らが住み暮らす国、地域の魅力を再認識し、「令和」の時代になってからもさらに精進してまいりますので、青年会議所運動へのご支援ご協力、またご理解のほど宜しくお願い申し上げます。



## 8月第一例会

### まほろばざ～る NARA EXPO 2019

8月24日（日）一般社団法人奈良青年会議所は8月第一例会として創立60周年記念事業「まほろばざ～る NARA EXPO 2019」を東京・青山の地にて開催いたしました。飲食・展示・体験・観光案内ブースを通して奈良の魅力をしっかりと感じていただける設営をいたしました。また、東大寺、興福寺、薬師寺、春日大社の世界遺産4寺社の皆さまにも講話やトークセッションを通して奈良の魅力を発信していただきました。奈良JCメンバー一人ひとりが、奈良の魅力を東京から発信することが出来ました。また、本事業をお支えいただきました特別会員の皆さまにも心より感謝申し上げます。



～己の感性と美意識を研ぎ澄ませ、個性を叫ぼう～



## 2019年度新入会員紹介

# New Comer！！

### 1月入会



井村 高陽    大島 康孝    大宮 守雅    堤野 恭弘    西井 宏明

### 7月入会



井野 亮介    塗本 慎吾    米澤 弘朗    山本 浩貴

2019年度一般社団法人奈良青年会議所へ9名の同士が加わりました。  
明るい豊かな社会の実現、奈良のまちのさらなる発展のため  
会員同士切磋琢磨して精進して参りますので、  
地域の皆様や先輩方のご指導ご鞭撻を賜りますと共に  
新入会員の成長を温かく見守って頂きますよう宜しくお願い申し上げます。



**NARA JC**  
Since 1959

一般社団法人奈良青年会議所は創立60周年を迎えました。  
これからも明るい豊かな社会の実現のため  
奉仕・修練・友情の三信条のもと活動してまいります。

---

一般社団法人奈良青年会議所は明るい豊かな社会の実現のため  
共に運動を展開していただける同士を募集しています！！

■入会資格

- 1、年齢が12月31日現在20歳以上38歳以下であること。
- 2、奈良市・生駒市・田原本町・山添村に、自宅ないし会社（営業所・事務所など）があること。
- 3、他の青年会議所に所属していないこと。
- 4、青年会議所のメンバーとして人格・品格ともに優れていること。
- 5、国籍は問いません。

Home Page  
Facebook  
Instagram

<http://www.nara.jc.or.jp>  
[facebook.com/narajc](https://facebook.com/narajc)  
narajc.171

発刊 / 一般社団法人奈良青年会議所

〒630-8123 奈良市登大路町36-2 商工会議所会館4F  
TEL 0742-26-0112 FAX 0742-23-5519